チャウチャウ 	原産国は中国。 チャウチャウの起源は、現在でも分かっていませんが、スピッツの子孫であることは間違いありません。おそらく生まれつき人になつきにくく、頑固な犬というイメージを持たれているでしょう。 特徴は黒い舌です。外貌は太めのクマのぬいぐるみといった感じですが、抱いて可愛がるような犬ではありません。足は小さくネコに似ています。特定の人だけになつき、テリアと同じように噛みつく癖があります。アンダーコートと粗毛を取り除くために、まめに手入れをしてやる事が必要です。
土佐犬 	原産国は日本。 四国に土着の闘犬と外国産のマスティフ、グレート・デーン、ブルドッグ、及びブル・テリアを交配させて高知県で繁殖したのが土佐犬の始まりです。この犬種はかつてはジャパニーズ・マスティフと呼ばれていました。 ドッグ・ファイティングは時代が変わっても世界中で多くの人々を魅了してきましたが、現在ではヨーロッパ、北アメリカ、及び日本では禁じられています。しかし、日本では地方でアングラのドッグ・ファイティングは続けられており、西洋で繁殖されたものよりサイズが小さく体重が 30～40kg ある土佐犬は今もなお闘犬として活躍しています。この犬は恐るべき性格を秘めています。特に雄犬は人間や他の動物にうまく慣れさせ、訓練も早期に行う必要があります。 サイズの大きさと闘犬としての経歴を持つ事から多くの国では飼育を禁止されている犬種です。
トイ・プードル 	原産国：フランス 適度に丸い頭部に幅広の耳が垂れ下がっている。尾は断尾される習慣があるが、根元は結構太くボディーから上向きに伸びている。独特なカットの意味／もともとプードルはカモ猟など水辺での猟い使われていた犬で、あの独特なカットも、水に入った時に毛が水を含んで重くならないためのもの。胸や脚に毛が残っているのも、一番大切な心臓と冷えやすい関節をカバーするという意味がある。おしゃれのためだけではない、実用的な目的があったのだ。しかしそれが次第にファッション化したのに伴って、愛玩犬としての役割が強まり、大きさも小型に改良されていった。トイは 18 世紀に誕生し、フランスの貴族の間でもてはやされた。
 日本スピッツ	原産国は日本 全体のバランスの美しさが、この犬独特の上品さと優雅な雰囲気を生み出しています。家庭犬として手頃なサイズです。丈夫で適応力があり、活動的。明朗かつ親しみやすい、明るい性格の家庭犬です。
 日本テリア	原産国は日本 体毛が豊富で粗い巻き毛か又は縮れ毛ですテリア気質は程々で、穏やかな性格をしています。活発で親しみ易い犬です。明治初期に作出された日本原産種のテリア。
ニューファウンドランド 	原産国はカナダ（ニューファウンドランド島） 体長：70cm くらい、体重：50～70kg　大きさの割には、性格は「穏やか」そのもの。忍耐と適応力に富んでおり、子供から大人までよく親しむ。海難救助犬としても活躍しているとおり、泳ぎも得意。足に水かきを持っている特殊な犬でもある。大型犬ゆえに足腰への負担が問題になる。日ごろから適度に運動させてあげることが必要。時には泳がせるとストレスの解消にもなる。従順なのでしつけも楽にできる。
バーニーズ・マウンテンドッグ	原産国はスイス。 ヨーロッパや北アメリカで人気急上昇の犬種です。 特徴は光沢のある黒い被毛。被毛は豊富で、長く滑らかです。胸、鼻柱、足、尾の先は白色です。そして、とても頑丈な前足を持っています。 家畜のハーディングや荷車を引くトレーニングを受けた使役犬であるバーニーズは、忠誠心もよく体得し、ショー・ドッグとしても優れています。非常に愛情深いジャイアン

	ト犬ですが、調教師に育てられるのがベストです。
ハセット・ハウンド 	原産国はフランス。 普段は、物静かで温和なバセットですが、手におえない事もよくあります。 バセットはかつて優秀な猟犬でした。垂れた耳は臭いを捉えるのに役立ちました。今でも、骨は軽く、脚は長めで、胴体は扁平のバセットは野原で活躍しています。しかし、典型的な愛玩用バセットは体重が重く、体長が長く、体高が低いのです。現在この犬種はコミック作家や広告業者の創作欲をそそるようです。合衆国ではマンガの主人公、バセットがひょうきんな性格を演じています。そして世界中でバセットはぴったり合う靴の象徴になっています。
パピヨン 	原産国はヨーロッパ大陸。 パピヨンとはフランス語で蝶々を意味します。健康な犬種なので、都会にも適しているといえます。 心理的には飼い主を独占したがる傾向がありますが、正しい訓練を行えばよく服従するようになります。 パピヨンは 16 世紀のスパニッシュ・ドワーフ・スパニエルの子孫であるといわれることもありますが、体形と長い絹糸のような被毛は北方スピッツ犬種の血を引いているとも考えられています。
パグ 	原産国は中国。 ケンカ早くて個人主義的、精力的でタフな犬、と同時に頑固な一面も。自立心旺盛で断固とした態度。自分は何を欲しているのかを自覚して納得のいくまで動じません。意志が強く強引な面もありますが、攻撃的になることは滅多にありません。 飼い主には愛情を持って接し、やすらぎを与えてくれます。
ビアデッド・コリー 	原産国はイギリス。 この犬種の大きな特色は、豊富に生えた被毛です。 グレー、フォーン、ブルー、褐色、黒、があります。 ビアデッドコリーの起源はポーリッシュ・ローランド・シープドッグと考えられています。 イギリスで名声を得た後、アメリカ、そしてカナダでも高い人気を得ました。 元気がよく友好的なビアデッドコリーは精神的かつ肉体的な刺激を絶やさず与える必要があるので、 時間的な余裕とエネルギーのある人には最適な犬です。
ビション・フリッセ 	フランス 体長：24～29cm、体重：3～6kg　名前の由来は「ふわふわした犬」「着飾る巻き毛」とか言われている。人なつこく遊び好き、甘え上手で感受性豊か、と性格は文句なし。 特徴となっている毛の手入れには、それなりの覚悟が必要。遺伝的欠陥はなく、いたって健康な犬である。性格にも問題なく、室内での飼育も簡単である。注意する点をあげるとすれば、「毛の手入れ」。これにはそれなりの費用と手間はやむをえない。
ビション・フリーゼ 	原産国は地中海地方。 この犬の明確な起源は分かっていませんが、14 世紀までに、船乗りたちの手でテネリフェ島に運ばれ、その後、15 世紀には、すでに王室の人気者になっていました。愛らしく、順応性があって、とても幸せそう。それでいて勇気があって活動的。1970 年代後半に登場して以来ビジョンはたくさんの愛好家に恵まれてきました。根っからの愛玩犬であると同時に、闘争心があって大胆です。日頃からグルーミングを欠かす事はできません。 歯石や虫歯が出来やすいので歯と歯ぐきの手入れも必要です。
ピレニアン・マウンテンドッグ	ヨーロッパ（ピレネー山脈） 体長：65～80cm、体重：40～55kg　アメリカでは「グレートピレニーズ」と呼ばれてい

	る。ヨーロッパの山岳地帯で生活してきた。山仕事や牧畜作業の強い見方である。飼い主には忠実であるが、警戒心が強く勇敢である。おおむね健康な犬である。 番犬としてはこれ以上の犬はないかも知れない。ただ、サイズゆえに飼育にはそれなりのスペースが必要。十分な運動とグルーミングには気をつけたい。
ビーグル 	原産国はイギリス。 ビーグルはハリアーやイギリスの古代ハウンドの子孫だと考えられています。独立心旺盛で、気が散ると道を逸れる傾向がかなりあります。人気の秘密は情愛深い性格と攻撃性の低さにあります。この落ち着いた犬種の持つ望ましい特徴としてエレガントで響きの良い声があります。国ごとに大きさや外貌は非常に異なります。
ブル・テリア 	原産国はグレート・ブリテン。 ブル・テリアはブルドッグと現在では絶滅したホワイト・イングリッシュ・テリアとの交配によって、闘犬場でもドッグ・ショーでも、観客の目を奪う犬がつくられたのです。ブルドッグの力強さとテリアの粘り強さを併せ持つ、究極の闘犬用の犬です。現在では、おしゃれなコンパニオンとなっています。この犬種は普通の犬と比べても、噛みつく傾向は少なく、人間に慣れ親しむことができます。しかし、いったん噛みつくと、簡単には離さないため、相当な傷を負わせることになります。
フラット・コーテッド・リトリーバー 	イギリス 体長：56～62cm、体重：25～36kg　ガンドッグとして根強い人気をもつ。水陸両方で回収犬として活躍している。盲導犬としても活躍する非常に利口な犬。子供にも寛容で、家族のよき伴侶となる。他のリトリバー同様、服従訓練は朝飯前である。水泳を含め運動には熱心な犬で、日常の運動には配慮してあげたい。都会の暮らしにも適応できるが、やはり田舎が似つかわしい。服従訓練にも十分耐えうる性格で、飼い主の喜ぶ姿を楽しみにしている。
プードル 	原産国はフランス。 スタンダード・プードルの原産国はドイツですが、今日よく見かけられる小型犬プードルの原産国はフランスで、トイ･プードル、ミニチュア・プードル、ミディアム・プードルがいます。50 年前プードルは世界一人気のある犬で、装飾愛玩犬として世界中の街で見かれられたものです。現在でもプードルは信頼性の高い愛玩犬になります。犬種を小型化すると、時としてまるで子犬のように人間に対する依存心の高い犬が出来ますが、プードルに限ってはそんな事はありません。健康な犬であれば、自立心旺盛犬格を備えています。そして、犬格優秀なものであれば、感度、訓練欲、思考力のいずれをとっても抜群の性能を示します。
フレンチ・ブルドッグ 	原産国はフランス。 1860 年代、フランスのブリーダー達はイギリスから非常に小型のブルドッグを輸入し、フランスのテリア犬と交配させました。そしてつくり出されたのがフレンチ･ブルドッグです。ワガママな一面をしばしばのぞかせるこの小さな犬がイギリス産の小型ブルドッグの血を引いているというのは説得力があります。不思議な事にこの犬が初めて純粋犬種として認められたのは、フランスでも、イギリスでもなく、アメリカだったのです。当初、粘り強くネズミを捕まえるという実用性を求めて繁殖された犬でしたが、その後パリの労働者階級のアクセサリー犬になりました。以前ほど頭数は多くはありませんが、この犬の社会的地位は高まり、現在では、経済的に豊かな家庭で飼われています。
ブルドッグ 	原産国はイギリス。 ブルドッグほどその形態、機能、性格が大きく変えられた犬はほとんどいません。 ケガを負ってもものともせず冷酷に獲物に襲いかかっていく、強くて頑固なブルドッグはまさに理想的な闘犬でした。 今日見られる温和なブルドッグはドッグショーのためにつくられたものです。 陽気で楽しい性格を持つ忠実なパートナーになります。
ペンブローク・ウェルシュ・コーギー	原産国はイギリス。 伝統的な牛追い犬であるコーギーは牛を市場まで連れて行くのにイギリス全土で使われ

	ていました。体力と優れた作業能力を持っていたため、人気の使役犬になりました。現在でも使役犬として使われてるコーギーはいますが、ほとんどはコンパニオン犬として飼われています。もともと家畜追犬としての役目を果たしていたこの犬種は噛みつきやすい性質を持っていますが、ブリーダー達の努力のおかげで、ある程度のところまで弱める事ができました。
ペキニーズ 	原産国は中国。 かつては中国の王宮だけで飼われ、仏教と強い結びつきがある犬として愛玩されていました。中国の皇太后テイツィー・ヒシが定めた規定があります。それは「ペキニーズは四肢が短く、曲がっているため遠くまで徘徊する事は出来ず、首の周りに生えた柔毛の襞襟は独自の気品を感じさせ、選り抜きの娘のような可憐な外貌を呈していなければならない」と。しかし、ペキニーズの際立った特徴は他にもあります。強情な気性、カタツムリのようなのろい動作。この犬は落ち着きと自立心があり、一緒にいて楽しくなるような犬との触れ合いを楽しみたいという人たちには愉快なコンパニオンとなります。
ペルシアンシープドッグ （ターヴュレン） 	原産国はベルギー。 ターヴュレンは、トレーニングのしやすさと素晴らしい集中力のため、機敏性テスト犬、警察・警護犬、目の不自由な人や体に障害を持つ人を助ける補助犬として使われるようになりました。またこの 10 年間で、密輸される麻薬を捜す嗅覚犬としても使われるようになり、これが大成功を収めています。 体は 2 色の長いオーバーコートで覆われ淡色のオーバーコートにはティッピングがあり、これがターヴュレンの魅力を増し、最近この犬種の人気は高まっています。 しっかりとした管理を すれば栄える犬です。
ボクサー 	原産国はドイツ。 ドイツでは 100 年前に高品質の“デザイナー”ドッグをつくり出すための繁殖が行われました。この丈夫で、自信に満ちたボクサーはその計画繁殖の成功例のひとつです。現在、サイズは国によってまちまちですが、性格は当時のままで、活動的、積極的、そして強く、ふざけるのが大好きです。習性は成犬になっても、子犬の時と変わらず、動作が機敏で、サイズが比較的大きいため、時として大騒動を巻き起こす事があります。筋肉質なボディと威圧的な外貌をもつため、家を守るのには最高に犬です。反面、子供たちに対しては優しく接してくれます。
ボルゾイ 	原産国はロシア。 ボルゾイはもともとロシアで人間をオオカミから守るために改良された犬で、大きさ、速さ、筋力、及び均整美は、優れたハンターとしてのものです。眼は楕円形でかなり中央寄りについています。長いウサギ型の足の被毛は短く、ぺったり寝ています。 この種はロシア国外で 1 世紀近くコンパニオン犬として厳密に養育されてきました。現在この種は狩に対する関心と適性を失い、子供から老人まであらゆる年齢に温厚で従順なコンパニオン犬になっています。
ボーダー・コリー 	イギリス（スコットランド） 体長：50cm あまり、体重：14～20kg　その名のとおり、イギリスとスコットランドの国境(ボーダー)で生れた犬。牧羊犬として活躍してきた。 従順で高い知能が特徴。健康的にも問題はない。元来、作業犬であり、運動(仕事)と刺激を好む。従順な性格で、飼育に問題は少ない。賢い犬で、しつけも難なくこなしてしまう。 運動への配慮が必要なくらいで、グルーミングなどの手入れも非常にラクである。
ホワイト・テリア 	原産国はグレート･ブリテン。 当初はネズミ捕りとして用いられていました。現在はすっかりコンパニオン犬として世界中に知られています。また、犬に関しては、白はおしゃれな色であり、幸運や清潔さを意味するため、北アメリカ、グレート･ブリテン、ヨーロッパ、日本で非常に人気があります。この犬種は、アレルギー性の皮膚病にかかる率が高く、また、興奮しやすい気質を持っているため、行き届いた世話と、定期的な運動が必要です。
ポメラニアン	原産国はドイツ。 ビクトリア女王に飼われた事がきっかけとなり、ポメラニアンは一般的にも普及しまし

	た。ポメラニアンはもともとは今よりも体が大きく、色も白い大型犬でしたが、犬種改良家達は 出来るだけ小型の犬種を選んで、現在一般的になっている小型で、毛色もセーブルやオレンジ色のポメラニアンをつくり出したのです。ポメラニアンはむやみに吠える習性があるので、優秀な番犬になり、自分よりも大きな犬に対しても向かっていきます。また、コンパニオン犬としても非常に優れた犬です。
マスティフ 	イギリス 最強の犬／2000 年以上前からイギリスで番犬として飼われてきた超大型犬。現在マスティフと呼ばれているのは正確にはオールド・イングリッシュ・マスティフといい、この先祖はチベタン・マスティフである。エジプトの遺跡、ペルシアやローマの叙事詩、初期の英文学にも登場する古い犬で、シーザーがイギリスに遠征した際にローマ持ち帰ってライオンやクマなどと戦わせたという記録も残っている。12 世紀頃からは闘犬に利用され、その後は軍用犬として戦場で群れを組んで人馬に攻撃したという。日本にも輸出され、四国犬との交配で土佐犬を生み出した。
マルチーズ 	原産国は地中海地方。 かつては、マルチーズ・テリアと呼ばれていました。陽気で明るく、特に神経質なこの犬には、抜毛が無く長くて瀟満な被毛が生えます。このため、特に子犬の被毛から成犬に生え変わる生後 8 ヶ月前後には、被毛のもつれに悩まされます。従って、毎日欠かさずグルーミングする事が不可欠です。子供に対しては、ほとんどいつも変わらず好意的に接します。運動好きな犬ですが、運動させる機会があまり無くとも、動きの少ない生活に順応するはずです。
ミニチュア・シュナウザー 	原産国はドイツ。 ミニチュア・シュナウザーは、かつてはすご腕のネズミ捕りでしたが、現在では、ほぼ完璧なコンパニオンになっています。同種のイギリスのテリアに比べて、騒がしく吠える事もなく、攻撃的なところもないので、北アメリカでは都会のコンパニオンとして人気があります。この犬種は極めて穏やかな犬であり、訓練も容易で、噛みつく癖もありません。子供や他の犬とも慣れ親しむ事ができ、人間の家族との生活を楽しみます。またよく吠える犬は優れた警察犬になります。被毛はほとんど抜けませんが、顎髭は食事の後には汚れるので絶えず気を配ってやらなければなりません。眼は生まれつき剛毛のもじゃもじゃの眉に覆われています。
ミニチュア・ブル・テリア 	原産国はグレート・ブリテン。 犬種改良家が一貫して大型のブル・テリアをつくり出すようになると、反対に小型のブル･テリアをつくり出そうとする者も数多く出てきました。こうしてミニチュア・ブル･テリアがつくられましたが、この犬は小型犬ではないので、本当の意味でのミニチュア種とは言えませんが、ブル･テリアに比べれば小型です。性格はブル･テリアよりも テリアに近い気質を持っていて、すぐにかんしゃくを起こすところがあります。子供にからかわれると、我慢することが出来ないため、子供に初めて接する際には、必ず監視が必要です。この犬種は優れた番犬になり、また、都会の共同生活に住む者にとって、理想的な体の大きさです。
ミニチュア・ダックスフンド 	原産国はドイツ。 ダックスフンドという国際名はアナグマ犬という意味で、これらの犬のもともとの用途を表しています。これらの犬は 100 年前から「穴にもぐる犬」として改良されてきました。スタンダード犬はアナグマやキツネを追って穴にもぐりますが、ミニチュア犬はウサギを追います。ショー･ドッグはぶ厚い胸と短い四肢を持っていますが、仕事をする犬は胸もそれほど厚くなく 四肢も長くなっています。現在でもドイツでは使役犬として用いていますが、ほとんどのダックスフンドは家庭のコンパニオンとして飼われています。スムースヘアード・スタンダード・ダックスフンド、ロングヘアード・スタンダード・ダックスフンド、ワイアーヘアード・ミニチュア・ダックスフンド、などがいます。人なつっこく、社交性にとんだ性質を持っています。
ミニチュア・ピンシャー	原産国ドイツ。別名：ツウェルクピンシャー ピンシャーとは、ドイツ語でテリアあるいは噛む動物を意味します。何百年も前に、ジャーマン・ピンシャーからつくり出されたミニチュア・ピンシャーはもともと体は大きく、牛小屋の優れたネズミ捕りでした。今日の優雅な外観は、最近の選択改良によってつくられました。現在ではコンパニオン犬としてのみ飼われていますが、その能力はいささかも衰えていません。小さな体に似合わず、自分より 10 倍も大きな犬に果敢に向かっていきます。また、噛みついてから相手を探る傾向があります。体長：25～32cm、体

	重：4～5kg　陽気で小柄なショードッグ。自己顕示欲の塊で、スポットライトを浴びるために生れたような犬。子供とも仲良く暮らすことができ、室内犬としても問題なく、番犬としても活躍してくれる。飼育・手入れとも非常に楽な犬である。膝が弱いことが知られているので、大切に扱ってあげたい。短毛種なので手入れは簡単であるが、寒さに弱いので、外出にはセーターなどを着せるとよい。
ヨークシャー・テリア 	原産国はグレート・ブリテン。 エネルギーのかたまりのようによくじゃれるこの犬種は、現在グレート･ブリテンで最も数多く見られる純血種です。犬の持つあらゆる長所を兼ね備えたミニチュア種であるため、ヨーロッパの他の地域や北アメリカでも同じように人気があります。神経質でおとなしい性格の子もいますが、典型的なヨークシャー･テリアは、その体からは想像できないほど精力的な犬種です。この犬の活発な動きを見ていると、そのエネルギーは無限であるかのように思えます。この犬種はおしゃれなアクセサリー犬のように思われがちですが、もともとの粘り強く、強情な気質を、現在でも失ってはいません。体長：23cm くらい、体重：3kg　ペットのなかでも人気の一種。日本でも皇太子妃の家で飼育されていたことは有名。テリア本来の勇ましい性格であるが、安定した気質をもち他の犬とも仲良く暮らすことができる。健康面でも問題は少ない。室内犬として最適。家庭内でよき伴侶となってくれる。この犬の特徴でもある長い毛は、それなりの覚悟を決めてグルーミングに取り組む必要がある。
ラブラドール・レトリバー 	原産国はイギリス。 耐水性で水好き。愛想が良く社交的。家族思い。世界で最もポピュラーな家庭愛玩犬です。当初は、ニューファンドランド海岸で魚のかかった網を漁夫が引き上げる事が出来るように魚網の浮きを探し出しては浜辺に運んでくる役割を果たしていました。今日ではまるで人間の家族の一員のように溶け込める家庭犬の真髄として、ゆるぎない評価を得ています。たまに性格がわがままなものが見かけられますが、それでも世界中で最も従順で信頼できる犬種のひとつであることに変わりはありません。
 レークランド・テリア	原産国はイギリス 風雨や気候に耐え得るようにとても硬く針金のような剛毛が密生しています。活発でよく遊ぶ、大胆な犬です。
ワイマラナー 	原産国はドイツ。 発達した筋肉とユニークな体色を持つこの犬種は作業犬としてもコンパニオン犬としても人気があります。普段は明敏かつ従順で勇敢な犬です。が、その反面臆病なところもあります。ポピュラーな短毛種と比較的めずらしい長毛種がありますが、いずれも信頼できる作業犬です。また、天性の性向と長所を生かして信頼性の高い番犬にもなります。優美でかつ、スピード、スタミナ共に優れ、持久力がありますが、何よりも注目したいのは、この犬種の「スター性」でしょう。琥珀色か、ブルー･グレーの眼、輝くようなスチール・カラーの被毛は、貴族的な品格を感じさせます。ゲームの運搬を速やかにこなす様は広く賞賛の的になっています。服従訓練の飲み込みも早く、都会でも田舎でも飼う事が出来ます。
ワイアー・フォックス・テリア 	原産国はグレート・ブリテン。 ワイアー・ホックス・テリアは 1870 年代に初めてドッグ・ショーに登場しました。 体は密生した針金状の硬い被毛に覆われ、まっすぐな前脚は、ほっそりしています。そして、顔面には、頬髭が密生しています。人間に対して、感情を素直に表に出さず、強情で、やや噛みつく癖があります。時代を経ても失われずにいるこの犬種の本能的な特徴のひとつに、土堀が好きな事があります。また、他に犬に対して戦いを挑みたがる所も、目立った特徴です。